# いざなぎ学園だより

2024.1/17

## ◆令和５年度　淡路文化会館「いざなぎ学園」第２４回講座◆

令和６年１月 17 日（水）「いざなぎ学園」第２４回講座、午前中は、教養講座９「復興支援から学んだこと」(講師　復興支援ネットワーク淡路世話人代表・淡路シネフォト　木村　幸一 氏)。午後はサークル活動 A9(音楽・ｼﾆｱｽﾎﾟｰﾂ・詩吟・PC 初級・ふるさと学・民踊・美術・園芸)が行われました。

◎学園生のみなさんの感想　　振り返りシートから(抜粋)

・元旦に発生した能登半島地震被災地の大変さを阪神淡路大震災の経験と重ね合わせ、思いを馳せています。木村先生の講演から「被災経験があるからこそ見えてくる的確な支援活動がある。地域経済を動かしていく支援をしなければ、現地が自立できない。地域及び個人が自立できることが大切で、そのための支援が一番大切である」という言葉に共感しました。

・「地震は忘れたころにやってくる。天災は防げないけど、減災はできる」本当にその通りだと思います。阪神淡路大震災を知らない若い人が増えていますが、毎年１月１７日に地震があったことを思い出して南海トラフ地震に備えようと思います。来年も講義に来てください。ありがとうございました。

・防災の講演はすごく大事だと思います。とてもよかったです。たくさんの気づきがあり、これから来る災害に対しての考え方も変わりました。またお話の中で人生に対しての姿勢も考えさせられる内容でしたので講演を聞かせていただいて本当に良かったです。私も防災士の資格を取りましたが、何をしたらよいか迷っていました。語り継ぐことも大切な使命だと思います。「何ができるか」を迷うより、「何かをする」という前向きな姿勢に立つことが大切で、語り継いでいくことの大切さを感じました。

・講師先生が実際に「復興支援されたことを通して学んだこと」を講義してくださり、とても参考になりました。「固定観念にとらわれず、互いの違いを認め合い、失敗を恐れず挑戦することを信念とする。復興とは、その土地の文化を大切にし、押しつけず、現地の自立を支援する。語り継ぐことの大切さ」を再認識しました。ありがとうございました。

・今年は能登半島で地震が起き、元旦のお祝い気分が吹き飛んでしまいました。「被災地に何か支援を」と思ってもなかなか何をやってよいかわかりにくい中、今日の木村先生のお話で、いろいろなことがわかりよかったです。良かれと思っても受け取る側にとってはそうではないこともあることがよくわかりました。

・救援物資の在り方、仕方、考え方ひとつで 180 度違うことがわかりました。阪神淡路大震災から２９年、年月が経つのが早いです。東日本大震災、今年の能登半島地震、日本に住んでいる以上、いつ起こるかわからない地震に備えなければならない。他人事ではない。

・大変良いお話をありがとうございました。実際に復興支援活動を体験されてきたことをお話しされたことに感銘を受けました。特に「減災」についてお話しされていましたが、このことが本日のお話の本質だと思いました。「天災は避けられないが、減災はできる」このことが大切だと思いました。

・元旦に起きた能登半島地震、そして羽田空港での飛行機事故。予想もしていなかった突然の出来事に楽しいお正月を故郷で迎えようとした家族の人生を変えてしまいました。阪神淡路大震災を経験し、無事にお正月を過ごした私は心が痛みます。災害にあわれた皆様の一日も早い復興をお祈りしております。